

■ QLシリーズ 追加した新機能一覧表 (V4.00以降)

最終更新：2022/12/6

バージョン	追加機能	補足説明	関連項目
V5.80	・ AFC Imageのコントロールに対応し、オブジェクト操作やシーンリコールの連携ができるようになりました。		
	・ Shure製品(QLX-D、ULX-D、AXT Digital)の最新のバリエーションおよび帯域に対応しました。		
V5.70	・ Dante Domain Manager (DDM)のSMPTEモード*(ST2110-30 clocking)に対応しました。このためDDM登録中はWord ClockとPreferred Masterが変更できなくなります。	*DDMのSMPTEモードでは、ドメインはSMPTE ST2110-30クロッキング用に構成され、Danteデバイスと非Dante SMPTEデバイス間のオーディオの相互運用性を実現します。	
	・ Shure製ワイヤレスレシーバーの周波数1.2GHz帯に対応しました。		
V5.50 (V5.60)	・ ProVisionaire Controlのシステムモニタリング機能に対応しました。		<a href="#">ProVisionaireページ</a>
	・ DANTE I/O DEVICEとしてサポートする機種を「補足説明」のとおり追加しました。	・ アンブ (NEXO NXAMP 4 X4MK2, Yamaha PC-D/DIシリーズ) ・ インターフェース (Neutrik NA2-IO-DPRO)	
V5.10	・ DANTE I/O DEVICEとしてサポートする機種を追加しました。		<a href="#">対応機種リスト</a>
	・ アンブ(NEXO NXAMPmk2*)、パワードスピーカー(Yamaha DZR-D シリーズ、DXS XLF-D シリーズ)をリモート操作できるようになりました。	* CL/QLシリーズからNXAMPmk2をリモート操作するために下記の設定が必要です。	
		・ NXAMPmk2のファームウェアをLOAD4_21以降にアップデートする。 ・ NXAMPmk2に標準カード(NXRM104)、またはDanteカード(NXDT104mk2)を装着する。	
V5.00	・ DANTE I/O DEVICEとしてサポートする機種を追加しました。	・ アンブ(NEXO NXAMPmk2*)、パワードスピーカー(Yamaha DZR-D シリーズ、DXS XLF-D シリーズ)をリモート操作できるようになりました。	<a href="#">対応機種リスト</a>
	・ シーンをリコールするときに、チャンネルごとのフェードタイムを個別に設定するINDIVIDUAL FADE TIMEに対応しました。		
	・ プレミアムラックのデバイスにPortico5045(プライマリーソースエンハンサー)を追加しました。		
V4.50	・ Dante Domain Managerに対応しました。		
	・ Rio3224-D2、Rio1608-D2に対応しました。		<a href="#">Rio-D2製品ページ</a>

V4.10	・オーディオネットワークの相互接続規格「AES67」に対応しました。	<a href="#">AES67接続ガイド</a>
	・ Dante Device Lockに対応しました。	
	・ Dante接続非対応のShure社AXT400、QLXD4、ULXD4のデバイスコントロールができるようになりました。	
	・ DHCPやSTATIC IPをリモートコントロール用に設定できるようになりました。	
	・ Audinate社Dante-MY16-AUD2とd&b audiotechnik社DS10を新たにサポートしました。	・ Dante Controllerで以下のようにデバイスラベルをつけることで、SUPPORTED DEVICEとして認識します。 *Y###-***** #はUNIT IDで、0～9、A～F(大文字)の16進数3桁(000～FFF) * は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)
	・ EQタイプを全チャンネルで一括して設定できるようになりました。	
	・ RSio64-Dに挿入されているMini-YGDAIカード MY8-AE96Sの内蔵サンプリングレートコンバーターのステータス表示	
V4.00	・ チャンネルEQに新アルゴリズム「Precise」「Aggressive」「Smooth」を追加しました。	
	・ Premium Rackに新デバイス「MBC4」(マルチバンドコンプレッサー)を追加しました。	
	・ Shure社のデジタルワイヤレスレシーバー「ULXD4D」「ULXD4Q」のコントロール&モニタリングに対応しました。	
	・ Solo Modeを追加し、CUEキーを使ったインプット/アウトプットのソロ機能に対応しました。	
	・ Second Cue Bus機能を追加し、MATRIXバス7/8をCUE Bバスとして使えるようになりました。	
	・ iPhoneアプリケーション「MonitorMix」に対応しました。最大10台までを同時に使用して、各演奏者が手で好みのモニターミックスバランスに調整できます。	
	・ [TOUCH AND TURN]ノブを使ってGEQのゲインを調整できるようになりました。	
	・ I/OラックTio1608-DのHAコントロールに対応しました。	<a href="#">Tio1608-D製品ページ</a>
	・ DYNAMICS1のCOMPRESSOR、EXPANDERが、Key In Filterに対応しました。	
	・ FOCUS RECALL/RECALL SAFE/GLOBAL PASTEに、MUTE GROUP ASSIGN、BUS SETUP、SURROUND SETUPの項目を追加しました。また、対象となるTO STのパラメーターに、各インプットチャンネルのLRノミナル設定を追加しました。	
・ QLのFADER BANK AのMASTER部をカスタムフェーダーとして使用できるようになりました。		
・ サポートするDante機器として、AVIOM D400、Yamaha MRX7-Dを追加しました。	<a href="#">対応機種リスト</a>	

\*各バージョンで修正した不具合についてはファームウェアダウンロードページをご確認ください。

発行元：株式会社ヤマハミュージックジャパン PA営業部